

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2020年 春号 Vol.92

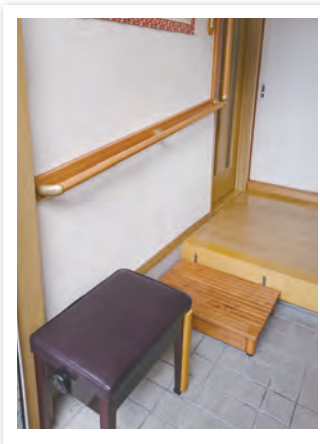
愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 訪問リハビリテーションについて
- 2面 【連載】セラピストだより② / 就任のごあいさつ
- 3面 地域クリニックとの連携の中で②
- 4面 患者さまだより② / 高槻在宅サービスセンターだより



病院からセラピストがご自宅へ訪問し、リハビリテーションをおこなっています。

訪問リハビリテーション

在宅支援科 山下 真人

訪問リハビリテーションとは、病院、診療所、介護老人保健施設の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が利用者の自宅を訪問し、心身の機能の維持・回復、日常生活の自立、社会参加を支援するために、理学療法、作業療法、言語療法のリハビリテーションを行うサービスです。また、介護する家族へのアドバイス・相談も行います。

当院の訪問リハビリテーションでは、当院退院患者様を中心に高槻病院の退院患者様や地域の利用者様まで受け入れをおこなっております。



対象となる方

- ・要介護認定を受けておられる方
- ・病院主治医、地域のかかりつけ医が訪問リハビリテーションの必要性を認める方
- ・ご自宅での日常生活動作や介助方法などに不自由や不安がある方
- ・医療保険でリハビリテーションを受けておられない方

訪問リハビリテーションの内容

- ・バイタルチェック（血圧、脈拍、体温など）
- ・身の回り動作の練習（トイレ、入浴、着替えなど）
- ・基本動作の練習（起き上がる、立ち上がる、歩く、階段など）
- ・ご家族への介助方法の指導（車いすへの移動やトイレの介助など）
- ・家事動作の練習（掃除、洗濯、料理など）
- ・外出練習、趣味活動の練習や指導（買い物の練習やバス・電車の乗降の練習など）
- ・食べる、飲み込む練習や指導、言葉話す・書くなどコミュニケーションの練習
- ・住宅改修や福祉用具のアドバイス（手すりの設置、段差の解消、車いすの選定、コミュニケーション機器など）
- ・自主トレーニングの指導
- ・介護相談



訪問リハビリテーションの内容は、利用者様の体の状態や自宅環境に合わせて行います。「こんな生活がしたい」、「こんなことが楽にできるようになりたい」などのご希望を担当者までお伝えください。訪問リハビリテーションのご利用希望の方は、病院の医療ソーシャルワーカー、担当のケアマネジャーを通じてご連絡をお願いします。

<病院からの訪問リハビリテーションの概要>

名称：愛仁会リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション
管理者：吉田和也（訪問リハ責任者 山下真人）
実施地域：高槻市・島本町・茨木市の一部

お問い合わせ：TEL.072-683-1212(代) 医事科訪問リハ担当まで



作業療法とは？

作業療法科 科長 塚本 賢司

皆様、作業療法と聞いてイメージできますか？ここでいう作業とは、生活行為の事を指します。作業療法は日常行っている生活行為全てが治療対象となります。当院では、ADL(日常生活活動)室という、生活環境を模した部屋があり、退院先に環境を近づけて、生活をシミュレーションしています。



作業療法は、生活行為を通じて身体機能を高めることや福祉用具という道具を変えたりする事で、できることを増やしていきます。また、脳損傷された方は、高次脳機能障がいという体や物の感じ方や注意の仕方が変わることもあります。その物事を認知する機能を高める練習をすることで動作が行えるようになっていきます。

また人の価値観は同じではありません。同じ生活動作でも、生活の為にされる方もいれば、生きがいとしてされる方もいます。一つ一つの生活を大切に皆様と一緒に生活を再建していけるようにスタッフは精進しています。

人は活動することで、元気になるれます。障がいがあってもなくても、活動的に過ごすことが大切です。



* 就任のご挨拶



学術支援室室長・リハビリテーション科部長 越智 文雄

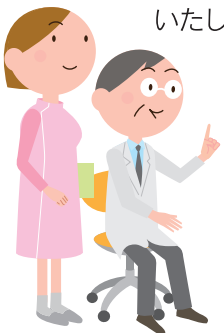
このたび4月1日から愛仁会リハビリテーション病院で勤務することになった診療部医師の越智文雄です。これまで約30年間防衛省・自衛隊で勤務し、埼玉県の防衛医大病院や東京にある自衛隊中央病院をはじめ各地の自衛隊病院で働いてきました。これまでは急性期病院で脳卒中や脊髄損傷、骨関節疾患だけでなく、がんや呼吸・循環器疾患、腎不全など様々な疾患の急性期リハビリを担当してきました。回復期病院で勤務するのは初めてですが、これまでの経験を活かし、患者様ができるだけ早く改善し、ご自宅に退院できるような手助けができればと思います。患者様のことを第一に考え治療を行って参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 森田 眞由美

当院の活動に対して平素は格別のご高配を賜わり、厚く感謝申し上げます。さて、2020年4月1日付で、愛仁会リハビリテーション病院に看護部長として就任いたしました。

これまでの看護人生のほとんどを急性期病院で過ごして参りましたので、リハビリテーションを中心とした医療に不慣れな部分がございます。しかし、看護とは傷病のケアだけでなく、健康の保持・増進に向けて貢献するものであります。急性期で学んだ経験も活かしながら、当院の理念である「再び、その人らしい生活に」の更なる向上に向け、よりよいチーム医療が提供できるように努力してまいります。

何卒ご高承のうえ、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





地域クリニックとの連携の中で

Vol.26



近藤診療所

内科・外科・整形外科・皮膚科・リハビリテーション科・麻酔科

〒569-1042 大阪府高槻市南平台2-14-2

TEL.072-694-4060

*診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
17:00~19:30	●	●	●	●	●	—

【休診日】 土曜午後・日曜・祝日・年末年始
その他休診日は院内掲示をご確認ください

*アクセス 高槻市営バスJR富田駅(のりば1)から

- ・73「萩谷」行き、75「萩谷総合公園」行き
南平台西口下車 徒歩3分
- ・72「奈佐原」行き 南平台下車徒歩1分

日々の診療でお世話になっている近藤診療所 近藤基之院長先生にインタビューさせていただきました。

開業された経緯

近藤診療所は1978年近藤先生のお父様が開業されました。2005年頃より近藤先生もお父様とともに診療を開始され、2012年に継承されています。現在は住宅地にある診療所ですが、お父様が開業された当初は診療所の前がゴルフ場であったこともあり、地域では数少ない医療機関だったとのことでした。

診療所の特徴

慢性的なご病気を抱える方の診療はもちろん、地域のかかりつけ医として花粉症や関節痛・外傷といったコモンディーズ(よくある疾患)の診療、さらに小児のご病気や予防接種にも対応されています。標榜されている診療科は内科ですが、近藤先生が診療所を継承される前に整形外科や皮膚科で研修を受け、様々なご病気に対応できるよう研鑽を積まれたとのことでした。また近隣で通院が困難な患者様には、ご自宅に訪問する訪問診療も行っております。患者様を診療する際には、疾患だけではなく家族背景や介護の体制なども把握した上で治療方針を決定するように心がけておられます。地域に近藤先生のようなかかりつけ医がいらっしゃることは本当に心強く感じます。

診療所の待合室には観葉植物がおかれ、窓からはきれいな芝生のお庭を望むことができ心が和みます。実は先生が日々お手入れされているとのことでした。是非診療所に行かれる際はご覧いただきたいと思っております。

いつも患者様のご紹介を快く引き受けていただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

近藤診療所 近藤基之院長 ▶



INTERVIEW

インタビュー

地域医療部 西川 侑希

Tさんは2019年夏に脳出血を発症され、リハビリ目的に当院へ入院されました。4カ月程



のリハビリテーションを経て、屋内は足に装具をつけて四点杖で歩行ができるようになり、手すりをつけるなどご自宅の環境を整えて退院されました。また退院後の目標の一つとしてお仕事への復帰を挙げておられました。

Q ご自宅での生活はいかがですか？

A. 訪問リハビリはいいね。病院で教えてもらったことも思い出しながら、ベッドからの起き上がり・トイレなど、家の中でも立派なりハビリになると実感しています。

受傷前は電車に乗って会社に行ったり、自由に車やバイクに乗って出掛けていたので、介護保険のサービスを利用することに葛藤はありました。でも、週1回でもデイサービスに行くことで、妻も自由な時間ができるし、ご飯にはノンアルコールのビールを出してくれたり、他の利用者とタバコを吸ったり、自由に過ごさせています。量は減ったけどタバコも飲酒も再開しています。

家での入浴もいいですよ。足の突っ張りがきついことはヘルパーに伝えていて、慣れているから安心して入浴できています。スタッフの皆様に感謝しています。



Q 会社には行きましたか？

A. 介護タクシーを使って、妻と会社に行きましたよ。車いす杖を使って、妻に助けてもらいながらなんとか行きました。職場の方にもとても感謝しています。

当院のスタッフに会いに「ふらっと病院に行けるようになりたい」と今の目標を笑顔で話して下さったことが印象的です。その日を楽しみに私も日々の業務に取り組みたいと思いました。

お忙しい中ご対応頂きありがとうございました。



愛仁会高槻在宅サービスセンターだより

8月の退院後、訪問看護・訪問リハビリ・ヘルパーをご利用されて、ベッド上の生活から元氣になられた70代男性Hさんをご紹介します。

Hさんは、慢性閉塞性肺疾患があり肺炎と診断され、6月に急性期病院に入院となりました。入院中はベッド上で過ごすことが多く、体力の回復とともに少しの時間であれば車いすに座ることができるようになりました。

退院後は、奥様と長女様ご夫婦との暮らしで、奥様は「自宅に帰るとなると、どう介護をしたらいいか」と不安を口にされていました。その為、清潔を保つ上でヘルパーが支援することとなり、ご家族も安心して下さいました。ヘルパーが訪問した時にはご家族も常にそばに来て時には一緒に介助をされ、ヘルパーが訪問しない日や夜間帯等、ご家族が協力し合って介助が行えるようになられました。

また、訪問リハビリの方から教わったりリハビリをご家族が関わり

不安は多いけれど 介護を頑張っておられるHさんのご家族

高槻在宅サービスセンター ヘルパーステーション愛仁会高槻 主任 植村 聡明

ながら行われ、今ではご自宅内を一人で歩き、ヘルパーのサービスもベッド上の介助からお風呂の介助に変わりました。

Hさんの今後の目標は、まずは一人で外を歩く自信を持ちたいと思われていますので、出来ることが増えるよう、また不安と思われることにも関わりながら支援していきたいと思っています。

在宅生活を送られる上で不安をお持ちの方はとても多いと思いますので、少しでも安心して過ごせるよう、私たちヘルパーは同居のご家族がおられても、身体介護や介護方法等のご支援をさせていただきます。

